

平成30年度 杉並区立杉並第一小学校 学校経営方針

校長 鈴木 知 徳

「 地域と共に、子どもが輝く杉一小 」

— 元氣な挨拶 ありがとうと言われる子 —

1 はじめに

創立143周年となる本校は、明治8年の開校から9年後に現在の場所に移り、その後134年間阿佐谷の街と共に発展してきた。平成13年度頃に一時全校児童数が200名程度となるが、その後学校教育コーディネーター・学校支援本部との連携・協働によって、放課後の子ども居場所事業「すぎっ子くらぶ」の創設をはじめ、子供たちの「学び」を豊かにする特色ある教育活動を様々開発・実施したことで、保護者・地域の信頼を得、併せて「学校希望制度」が実施されたことにより、平成28年度には再び400名を超える全校児童数となった。

平成28年度入学児童から「学校希望制度」が完全に廃止され、さらに校舎改築計画が立ち上がったことから、入学児童数は漸減し、今後12学級規模の学校となる見込みである。平成30年度は、70名の新1年生を迎え、12学級全校児童353名で、新学期をスタートした。

平成20年度に地域運営学校（コミュニティスクール）の指定を受け、今年度で3期11年目となる。地域・保護者からは、「地域の学校」として熱い思いを寄せられ、地域と協働した教育活動が展開されている学校である。

学校は、子供たちに豊かな自己実現を保障する場でなければならない。そのためにどの子にも学力・体力を保障することは言うまでもないが、まず「どの子にも居場所のある学校」でなくてはならない。学校に行けば、学ぶ楽しさがあり、友達と過ごす楽しさがある。自分を迎え、認めてくれる教師がいて、自分の居場所がある。そんな学校づくりを推進する。またその中で、チャレンジ精神旺盛な、たくましく元氣な子供の育成に努める。

本校のこれまでの歴史と伝統を確実に継承し、保護者・地域と協働する地域性に富む教育活動を充実させながら、一人一人の子供たちがきらきらと輝いている学校の創造を目指す。

また、新学習指導要領全面実施に向け、環境整備等諸準備を着実に進めていく。

2 教育目標と目指す児童像

21世紀を生きる日本人として人間尊重の精神を培い、常に自主的・創造的で、集団及び地域社会の一員としての自覚をもって地域社会とかかわりながら、夢に向かい、志をもって、自らの道を拓くことができる児童の育成を目指す。そのため、「知・徳・体」の調和のとれた生きる基盤を培うことを目指し、教育目標を次のように定め、全教育活動を通じてその実現に努める。

◎心の豊かな子ども

○進んで学ぶ子ども

○体をきたえる子ども

⇒学校教育目標の具現化を目指し、各学年・学級ごとに目指す児童像を設定する。

【学校全体で具体的に目指す児童像】

- ⇒ すすんで挨拶をする子。積極的に人と関わり、人との関わりを拓こうとする子。
(人間関係力の向上)
- ⇒ 学んで身に付けた力を発揮する子。(学ぶ意欲と実践力の向上)
- ⇒ 「ありがとう！」と言われる子(社会貢献意識と実践力の向上)
- ⇒ 自分も人も大切に作る子。(生命尊重、共生意識の涵養)

3 中・長期的目標と方策

杉並区立学校として、「杉並区教育ビジョン2012」(共に学び 共に支え 共に創る杉並の教育)の基本目標並びに取り組みの方向性を踏まえ、平成30年度も引き続き「力のある学校づくり」を推進する。「力のある学校」とは、以下のようにとらえる。

- 子供たちに学力・体力を保障する学校
- 子供たちの豊かな自己実現を保障する学校
- 教員が切磋琢磨し、チームワークを発揮する教師集団のある学校
- 保護者・地域に信頼され、家庭・地域と協働する学校

〈具現化のための8つの重点事項〉

- (1) 学力向上、体育・健康教育の充実(学力向上・元気いっぱい杉プラン)
- (2) 自他を大切にする心の教育の充実
- (3) 環境教育の充実、持続可能な社会の形成者としての資質の育成
- (4) ICT機器の活用、リテラシーの向上
- (5) 日本の伝統文化体験、言葉の教育の充実
- (6) 図書館教育の充実
- (7) 安全指導・防災教育の充実
- (8) 地域と共に歩む学校づくり

また、「保護者・地域に信頼される学校」を目指し、学校からの情報を積極的に発信するとともに、学校を公開していく。地域運営学校として学校運営協議会の意見を真摯に受け止め、学校運営、学校教育の改善に努めるとともに、保護者による学校評価を実施し、学校教育の改善に努める。

4 今年度の取り組み目標と方策

- (1) 学力向上、体育・健康教育の充実(学力向上・元気いっぱい杉プラン)
(基礎的・基本的な学力の定着、心と体の健康の増進)

〈学力向上杉プラン〉

7つの取り組み

- ① 問題解決的な学習 ② 杉一学習 ③ 学びタイム(放課後補充学習)
・夏季パワーアップ教室 ④ 少人数指導(算数) ⑤ 専科・外部専門家との協働
- ⑥ 学校支援本部との連携・協働 ⑦ 家庭学習

〈元気いっぱい杉プラン〉

3つの視点

学び：体育学習・健康教育・食育の充実

連続性：健康づくりの日常化 「元気タイム」、異校種との交流活動

つながり：学校支援本部・地域との連携、家庭・PTAとの連携

- 「学力向上杉プラン」に基づき、学校支援本部と連携しながら、個に応じた指導の充実と授業改善を図り、学力（教科学力・*21世紀型能力）の向上に取り組む。
 - 杉並区特定課題に対する調査、国及び都の学力・学習状況調査の結果を踏まえるとともに、個々の児童の学習状況を的確に把握し、学び残しに対する補足的な学習を充実させ、確かな学力の定着を図る。そのために東京ベーシック・ドリル、杉並ドリル等を活用する。
(杉一学習、学びタイム、夏季パワーアップ教室、家庭学習の習慣化)
(R1, R2層の合計を20%以下とする。)
 - 杉並区「特定の課題に対する調査」の結果を踏まえ、日記や短作文、朝会等の講話の感想文など「書くこと」の日常化を図る取り組みを学年ごとに工夫し実施する。
*国語科の基礎・基本の徹底（正しい鉛筆の持ち方の意識化、ノート指導）
 - 算数科の指導では全学年少人数指導、理科の指導では、理科支援員と協働した授業を実施し、個に応じた、専門性の高い指導の充実を図る。
 - 外国語科（高学年）・外国語活動（中学年）実施に向けた移行措置の完全実施。全面実施に向けて、校内環境を整備する。（例：英語表記の月名、曜日名などの掲示。）
 - 「元気いっぱい杉プラン」に基づき、「総合的な体力向上を目指した教育活動」を充実させるとともに、就学前教育とのなめらかな接続に留意した保幼小連携を推進し、健康教育、体力向上の取り組みの充実を図る。昨年度より保幼小連携推進校の指定を受け、講師を招聘し、研修の機会をもつなど、就学前教育との緊密な連携を一層充実させる。
 - 中休みの「元気タイム」の取り組みを通して、体力の向上、健康の保持増進を図る。
運動の日常化の工夫をする。（長縄跳びなど全学年を通した継続的な取り組みなど）
 - 保健だより等を通して、児童の課題に応じた情報を積極的に発信し、家庭における生活習慣の改善等積極的に働きかけていく。（睡眠、口腔衛生、食育）
- (2) 自他を大切に作る心の教育の充実
- 道徳授業地区公開講座等を通して、保護者・地域とともに道徳教育を推進する。また、道徳の授業はもとより、子供同士のかかわりや様々な人とのかかわり、飼育栽培活動（命をはぐくむ活動）を通して、豊かな心情をはぐくむ。（命の教育の充実）
*「生命の尊さを実感させる継続的な飼育・栽培」（東京都教育委員会 平成26年3月）
 - 全職員で子供を見守る体制を作り、児童理解を深めるとともに、スクールカウンセラーとの連携を密にして、児童・保護者のための相談体制の充実を図る。
 - いじめ・不登校など児童の健全育成上の諸課題については、早期発見・早期対応に努め、必要に応じて関係諸機関とも連携を図りながら、問題の解決に当たる。（校内委員会 SET）
 - 特別支援教育コーディネーターを中心に校内の特別支援教育の推進体制を確立し、特別な教育的ニーズに対応した校内の指導体制を構築するとともに、必要に応じてケース会議（校内委員会）をもち、特別支援教育の一層の充実を図る。（教育支援チームとの連携を緊密にする。）また、「特別支援教室」の設置に伴い、関係教職員（巡回指導教員、心理士、特

別支援教室専門員、担任、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー等)の一層の連携を図ることによって、適応指導と教科の補充指導の充実を図る。

(3) 環境教育の充実 (持続可能な社会の形成者としての資質の育成)

- 「ヤゴ救出大作戦」「野鳥観察」など身近な自然に触れる体験的な活動を通して、自然環境への関心を高め、環境保全に主体的に取り組もうとする態度を培う。
- ごみの分別・リサイクルや節電・節水などの省エネ生活の実践を通して、暮らしと環境問題との関係についての理解を深め、主体的に環境問題の改善に取り組もうとする態度を培う。

(4) ICT機器の活用、リテラシーの向上

- 2学期に配置されるタブレットPCの活用(日常的に使う・慣れる・活用)を通して、子供たちの操作技能を高めるとともに、プログラミング的な思考を高める活動(プログラミング教育)を学年の発達段階に応じて工夫する。
- インタラクティブホワイトボード(IWB)や書画カメラ、タブレットPCを積極的に活用し、子供たちの興味関心を高め、わかりやすい授業づくりに努めるとともに、子供たちの操作技能を高め、学習場面での利用率を高める。
- ICT機器を活用した授業公開を実施し、ICT機器の教育効果を保護者・地域に広く発信する。

(5) 日本の伝統文化体験・言葉の教育の充実

- 日本の伝統的な言語文化である昔話、神話、民話、和歌、短歌、俳句、漢詩、漢文、詩などの音読・暗唱等を通して、日本語のもつ美しさや豊かさを感じる感性を培うとともに、日本語を豊かに活用できる力や言語能力を育成する。(百人一首、区作成の教材の活用)
- 「書の体験」「謡い体験」「百人一首」等、日本の伝統文化・本物に触れる体験活動を通して、子供たちの豊かな人間性と創造性を育む。

(6) 図書館教育の充実 (学校図書館の学習センター機能の向上)

- 朝読書(杉一学習)、読書週間などの取り組みを通して読書活動の活性化を図るとともに、学校司書と連携した取り組みを充実させ、図書館教育の充実を図る。(児童一人当たりの年間貸し出し冊数目標 40冊以上)
- 学校図書館にPCを設置し、学習センター(調べ学習)機能の向上を図る。
- 保護者ボランティアを組織し、親子読書、読み聞かせ等保護者・地域と一体となって読書活動を推進する。

(7) 安全指導・防災教育の充実

- 「杉並区立学校(園)における震災時対応及び防災対策の指針」に基づいた「緊急時の対応マニュアル」を保護者に周知するとともに、9月第1土曜日の「引き渡し訓練」後に保護者・地域と協働した防災訓練・防災研修を実施し、防災意識の高揚、保護者・地域と共に取り組む防災教育の充実を図る。
- 4年生を対象に東京都の防災館を利用した体験的な学習を実施し防災教育の充実を図る。また5年生では、災害被災地での救援活動への従事体験者から話を聞く機会を設け(防災教室)、防災意識の高揚を図る。
- 安全指導計画に基づいて安全指導の徹底を図るとともに、児童の安全を第一に、教職員の多くの目で日常的に施設・設備の安全点検を行い、教育環境の整備・充実に努める。
- 「杉並区立学校安全対策の手引き」を活用し、学校事故の未然防止に努める。

(8) 地域と共に歩む学校づくり（豊かな体験活動の場の創造：土曜授業）

- 学校支援本部、学校教育コーディネーターとの連携を密にし、外部の人材や関係企業を活用した体験活動の場を積極的に創造する。（「カリキュラムマネジメント」の確立）
- 「地域で学ぶ、地域を学ぶ」をモットーに、地域に根ざした教育を推進し、地域にある教育資源の一層の活用を図る。学ぶことの価値を保護者・地域と共有する。（地域学習の充実）

◇ 杉一小の土曜授業（土曜授業プログラム）

杉並区教育委員会の方針を受け、平成25年度より土曜授業を試行し、平成26年度より、本格的に実施する。学校支援本部・教育コーディネーターと協働して、「かかわり・つながり」を重視した学習や身に付けた力を活用する「活用型」の学習、「学ぶ楽しさ」や「本物」に出会う学習の場を積極的に取り入れ、子供たちの豊かな「学び」の創造に努める。

5 目指す教師像

教育は人なりといわれるように、日々の教育活動は、まさに教師一人一人の力量にかかっている。常に自己研鑽に努め、変化に対応できる力を身に付けた教師でなければ、保護者・地域の信頼や期待に応えることはできない。校内における学びの場と機会を大切にし、互いに高め合う教師集団であるべく、次のような教師像を期待する。（校内OJTの推進）

- 子供のよさや意欲を引き出す教師
- わかりやすい授業を工夫する教師
- 自己研鑽に努める教師
- 目標に向かって協働する教師

6 保護者・地域との連携

- 学期ごとの保護者会のほかに個人面談を6月に実施するとともに、適宜個人面談を実施し、保護者の思いをしっかりと受け止め、一層の連携を図る。また、保護者による学校評価を実施し、結果を真摯に受け止め、教育活動の改善に活用する。
- 家庭の教育力を高めるべく、積極的に情報を発信し（学校日より、学年日より、保健日より、給食日より等）、保護者を啓発する。また、家庭における学習習慣の形成を図るため、発達段階に応じた適量の課題を毎日宿題として出す。
- 地域行事などに積極的に参加し、特に防災や交通安全などでは、地域との連携を一層深め、信頼関係の醸成と協働体制の確立に努める。

7 当面する諸課題

◇新学習指導要領全面实施に向けた諸準備

道徳を校内研究に取り上げ、道徳の授業改善を一層図るとともに、指導と評価の在り方について研修を深め、授業力の向上を図る。

また、高学年「外国語科」中学年「外国語活動」の全面实施に向け、移行措置として行う「モジュール」による高学年「外国語科」、15時間実施する中学年「外国語活動」を適切に実施し、授業時数の増加と指導内容、方法について実践を通して理解を深め、全面实施に備える。

◇2020年東京オリンピック開催に向けて

杉並区並びに東京都の東京オリンピック・パラリンピック教育の実施方針を踏まえ、4つのテーマ「1 障がいのある人への理解について 2 スポーツについて 3 文化について

4 環境について」に沿ってこれまでの本校の特色ある教育活動を再構成し、具体的に位置付けて実施するとともに、新たな教育活動を創出する。

【参考】「世界ともだちプロジェクト」学習・交流対象の国・地域グループ

○スペイン

・バハマ国 ・アンゴラ共和国 ・トーゴ共和国 ・東ティモール民主共和国

◇学校施設の長寿命化計画への対応

近隣の総合病院の建て替え計画に伴って、病院跡地に新校舎を建てる案が、現在杉並区の案として示されている。その結果、新校舎完成まで、おおむね10年かかることから、杉並第一小学校の「長寿命化計画」が現在進行中で、平成30年度、31年度の2か年（主に夏季休業中）をかけて内外装の改修工事が実施されるとともに、平成32年度（夏季休業中）には、体育館の改修工事が予定されている。改修期間中、通常の教育活動に支障をきたすことも予想されるが、影響が最小限となるように創意を尽くし、校舎の改修を進めていく。

◇働き方改革・ライフ・ワーク・バランスの推進

教員の働き方が、いま大きな社会問題となっている。子供の教育にかかる仕事は、子供たちのためにとすると切りのない仕事だが、先生方の良心によるだけでは、先生方の健康をも損ないかねない状況となっている。すでに杉並区では、PCのリモートアクセス等教員の働き方改革を支援する仕組みが提供されているが、社会問題化したことで、学校留守番電話の設置や閉庁日の設定など少しずつではあるが、制度改革が進んでいる。教員の負担軽減を図る教員定数の改善や処遇の改善にまでは及んでいないが、私たち自身が、自己の働き方を意識し、改善していくことが重要なポイントとなってくる。また教員の働き方の実態を保護者・地域の方々にも理解していただき、地域社会全体からも支持されて進めなければならない問題である。学校から現状を発信し、理解・賛同を得ながら、まず自己の働き方を意識して少しずつ変えていく。

8 おわりに

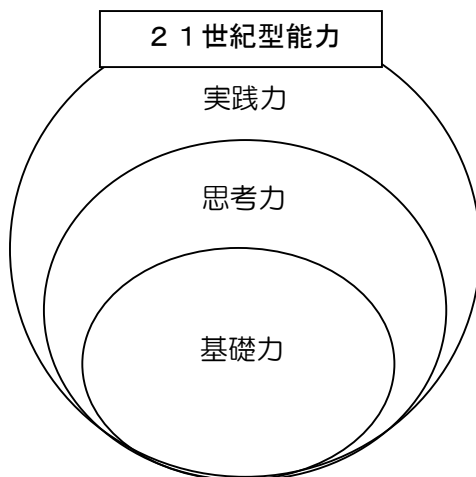
多様化する社会において、教育は、学校だけで完結するものではない。学校・家庭・地域が、それぞれの教育的な機能を十分発揮して、その役割が果たせるように、学校が核となって連携を深めていくことが重要である。特に家庭の教育力については、学校が積極的に情報を発信し、情報を共有しながら、「共に育てる」姿勢をもって臨み、家庭にお願いすべきことは、きちんとお願いしていく。また、保護者・地域の声には真摯に耳を傾け（教育的価値の共有）、教育活動の改善に活かしていく。

地域との連携ということでは、地域の教育力を活用するばかりでなく、地域のニーズにも積極的に応えていく、地域とともにある学校であることを目指す。日頃から地域に出かけ、地域の人々と接する姿勢をもつという普段の行動が、信頼を高め、意思の疎通を図るための大前提だと考える。また、健全育成上の課題については、関係諸機関との連携を密にして、情報を共有しながら、課題の解決・改善に取り組む。

今年度、杉並第一小学校の子供たちのために、全教職員が創意を尽くし、子供たちが誇れる、また保護者が我が子を通わせてよかったと思えるような学校づくりに教職員が一丸となって取り組む。

※「21世紀型能力」・21世紀を生き抜く力

(教育課程の編成に関する基礎的研究 報告書5「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」平成25年3月 国立教育政策研究所)



21世紀を生き抜く力:「思考力」を中核とし、それを支える「基礎力」と使い方を方向付ける「実践力」の三層構造としてとらえる。

⇒「生きる力」としての知・徳・体を構成する資質能力から、教科・領域横断的に学習することが求められる能力を汎用的能力として抽出し、これまで日本の学校教育が培ってきた資質能力を踏まえつつ、それらを「基礎力」「思考力」「実践力」の観点で再構成した日本型資質能力の枠組みである。

「思考力」とは:問題解決・発見力・創造力、論理的・批判的思考力、メタ認知・適応的学習力
「一人ひとりが自ら学び判断し自分の考えを持って、他者と話し合い、考えを比較吟味して統合し、よりよい解や新しい知恵を作り出し、さらに次の問いを見つける力」

「基礎力」とは:言語スキル、数量スキル、情報スキル

「言語、数、情報(ICT)を目的に応じて道具として使いこなすスキル」

「実践力」とは:自律的活動力、人間関係形成力、社会参画力、持続可能な未来への責任

「日常生活や社会、環境の中に問題を見つけ出し、自分の知恵を総動員して、自分やコミュニティ、社会にとって価値のある解を導くことができる力、さらに解を社会に発信し協調的に吟味することを通して他者や社会の重要性を感得できる力」